

例 言

1. 本書は、2024 年度に京都府立大学文学部歴史学科の教員と学生がおこなったフィールド調査、およびそれに関連する研究、調査研究成果の活用についての概要報告集である。なお、複数年度にまたがるものについては、2023 年度以前の調査成果も併せて収録している場合がある。
2. 第Ⅰ部には、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）をはじめ、京都府内において歴史学科教員が中心となって実施したフィールド調査の概要を収録した。
3. 第Ⅱ部には、京都府外の地域において、日本学術振興会科学研究費の研究課題や受託研究、実習授業などの一環で、歴史学科の教員と学生が中心となって実施したフィールド調査の概要を収録した。
4. 第Ⅲ部には、京都府立大学文学部歴史学科が中心となって進めている京田辺市史、和束町史の編纂事業に関わる調査の速報を収録した。京田辺市とは 2017 年度より京田辺市史編纂に関わる「連携協力に関する覚書」を締結しており、2022 年度からは大学全体と「連携協力包括協定」を締結している。包括協定を結んだことで始まった京田辺市内の小学校との連携事業についても第Ⅲ部で取り上げている。また、和束町とは 2017 年度より「連携協力包括協定」を締結している。
5. 第Ⅳ部には、歴史学科の学生による課内・課外での取り組みの報告を収録した。2020 年度に文化庁と締結した包括連携協定に基づく連携事業や京都府との連携事業についても取り上げた。なお、本年度の「文化遺産学フィールド実習」（歴史学科 2 回生向け実習科目）では京丹後市久美浜町に赴いた。本書にはその調査成果の一部も収録している。
6. 本号の編集は諫早直人が担当し、渡邊幸奈、横白彩江、山内愛弓（以上博士前期課程）がこれを補佐した。

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第 11 号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒 606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2025 年 3 月 31 日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒 606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
